野生鳥獣保護管理技術者育成研修（カワウ）講義資料

この講義資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Web での掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

2007 年度　野生鳥獣保護管理技術者育成研修（カワウ）概要

対　　象：都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他カワウの保護管理、調査、被害防除に関わる者

開　催　日：2007 年 12 月 10 日（月）～12 月 12 日（水） 2 泊 3 日

場　　所：愛知県三の丸庁舎（愛知県名古屋市）

講師と科目：福田道雄（カワウとウミウの生態の違いと識別）

：徳田裕之（特定鳥獣保護管理計画とカワウの広域保護管理）

：羽澄俊裕（野生動物の管理と狩猟）

：加藤七郎（滋賀県におけるこれまでのカワウ対策の取組について）

：加藤ななえ（ねぐら・コロニーにおけるカワウの個体数調査方法）

：清野昭彦（福島県カワウ保護管理計画について）

：大森住夫（カワウ被害対策協議会と栃木県カワウ保護管理指針）

野外実習：弥富野鳥園（愛知県） 視察と個体数カウント

現地説明者：愛知県弥富野鳥園管理事務所

：NPO 法人バードリサーチ

ねぐら・コロニーにおけるカワウの個体数調査方法

ＮＰＯ法人バードリサーチ
加藤ななえ

カワウの生息数と分布の回復に伴い、各地でカワウによる被害が訴えられるようになってきた。立場の異なる関係者が協力しながら、被害を軽減していくためには、順応的に進めることが大切である。計画作りの要となる現状把握や対策の効果検証のためには、カワウの生息状況のモニタリングは欠かすことができない。

ねぐら・コロニーにおけるカワウの個体数調査方法

①　ねぐら場所を見つける

1　早朝や夕方に、カワウの飛行の方向を調べて、おおよその場所を推定する。

2　以下の条件を目安にねぐら場所を探す。

A　水辺　　B　人が立ち入りにくい場所　　C 糞の白い跡　など

②　ねぐらを利用するカワウの数を調べる

1　現場の特徴を考慮して調査に必要な人数や調査場所などを決める。

A　地形　　B　規模　　C　距離　　D　管理者の意向

2　調査時間帯を決める

A　早朝のねぐら出の時間帯　　B　夕方のねぐら入りの時間帯

A と B のどちらがやり易いかはねぐらによって異なる。

カワウは、日の出前 30 分ほどから活動をはじめ、日の入り後 30 分位までにはねぐら入りが終了する。繁殖期は日中も出入りが激しいが、それ以外の時期は、採食や休息場所の条件や天候などにより群れの行動は異なる。

3　調査を行う

ねぐら場所までの距離が遠い場合は双眼鏡や望遠鏡が、個体数が多い場合は数取器（カウンター）があると便利である。

※　ねぐら入りの調査の場合

日の入り時刻の 2 時間前までに、既にねぐらにいるカワウを数えておく。

その後、ねぐらへ入るカワウの数とねぐらから出て行くカワウの数を、方向別にその時刻とともに調査用紙に記録していく。

集計する。…既にいた数＋入ってきた数－出て行った数

ねぐらの利用数は、季節や繁殖の有無によって異なるので、同一の場所では少なくとも夏と冬と繁殖最盛期の 3 回の調査が行われることが望ましい。地域の調査結果を共有することで、カワウの季節移動や、個体数・繁殖ペア数などの変化が明らかになってくる。

ねぐらを調査する時は、調査の行為自体がねぐらの撹乱を引き起こさないように注意する。ねぐらへの立ち入りはできるだけ避け、むやみに近づかない。ふだんのカワウのねぐらを観察できなくなるばかりではなく、無計画な分散を招く危険があるためである。また、通行人や地権者・管理者の迷惑にならないよう行動には十分に注意を払う。

平成19年度野生鳥獣保護管理技術者研修会

ねぐら・コロニーにおける カワウの個体数調査方法

NPO法人バードリサーチ
加藤　ななえ

順応的管理の進め方

現状把握
↓
科学的評価
↓
計画策定
（パブリックコメント）
↓
計画実行 → モニタリング調査 → 情報共有 → 科学的評価

調査項目

被害状況調査
生息環境調査

生態調査

①分布・個体数　　計画を作成する
②繁殖　　対策効果を評価する

③移動　　長期的な見通しを立てる
④食性　　↑
⑤病理・遺伝　　個体群の動向や生態の解明

分布・個体数調査

1　ねぐら場所の確定
2　各ねぐらを使うカワウの個体数

なぜ、『ねぐら』で調べるのか

カワウの生活

地域のカワウの行動圏を考慮して、
カウントの重複や、数え漏らしを回避する

ねぐら場所を見つける

◎　鳥の情報に詳しい人に教えてもらう
○　自分で探す
1　早朝、夕方のカワウの飛来方向を調べる
2　ある程度場所を絞り込めたら、
　以下の条件を目安に探す。
「水辺」
「人が立ち入らない」
「糞の白い跡」

参考

飛来調査
この時の目的
採食場所を見つける

22箇所×1～3名
日の出30分前～2時間

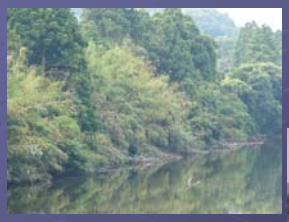
同じ方法で、早朝の飛来方向から
ねぐらの場所を見つけることができる

2001年11月16日飛来調査地点：多摩川

日本野鳥の会調べ

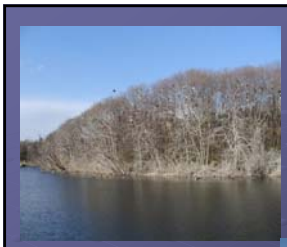
ねぐらでカワウを数える

ねぐらの様態

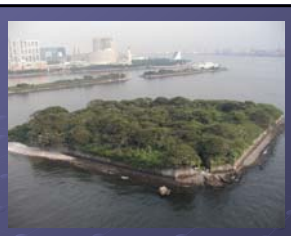


河畔林

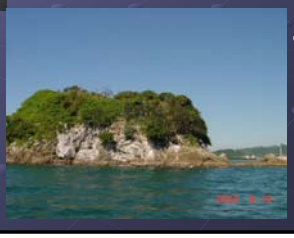
中州



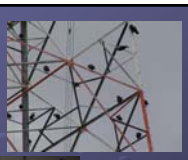
溜池　公園
ゴルフ場等

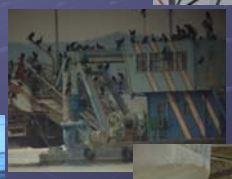


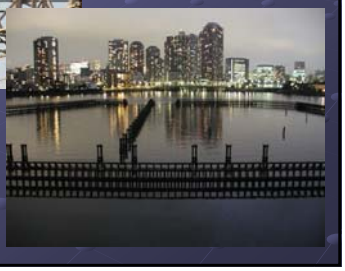
島



人工物にできたねぐら







調査用紙の例・・・個体数

ねぐら入り調査

No.

地名　カワウ沼　2007 年 12 月　2 日　時間　15:00～17:00
既にねぐらにいた数（　64　）羽　調査氏名　鵜沢太郎

	北		東		南		西		備考	
時刻	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW		
16:21						52				
16:38									4	NEへ
16:45					6					

Ａコロニーの場合・・・4人

Ｂコロニーの場合・・・4人

双眼鏡の使い方

★　必ず、首に掛けてください。

① 目の幅に合わせましょう

② 視度を合わせる

左目を基準にして右目の視度を合わせましょう。
視度調整リングの目盛を0に合わせ双眼鏡をのぞきながら
左右の目のピントが合うように回します。

③ ピントを合わせる

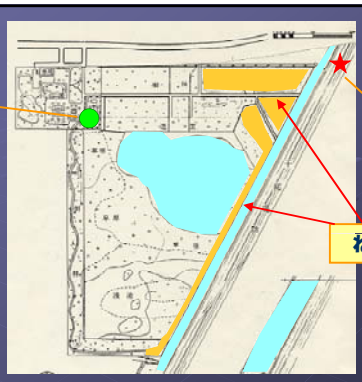
数取器（カウンター）の使い方

① 使いやすい、落とさない持ち方を
② 確実に押して、カウント
③ 一旦数え終わったら、必ず、【0000】に戻すこと

では、数えてみましょう

弥富野鳥園について

木曽川、長良川、揖斐川の河口から庄内川河口にかけての一帯は、全国でも有数な野鳥の宝。
昭和50年に鍋田干拓の一角に造成。



保護地内には、樹林地、芝地、池(2つ)、草原、ヨシ原、水路を設け、様々な野鳥が生息できる環境を整備。

調査前の準備

- 調査時間を決める。日の入り前2時間から日の入り後20分ほど
  12月11日名古屋の日の入り時刻→16:41
  開始　14:40　終了　17:00
- グループを組み、担当を決める。
  弥富はねぐらの規模が大きいので5人で組みます。
  (　調査方向別に4人、記録(集計)係1人　交替しながら　)
- 持ち物確認　双眼鏡、カウンター、記録用紙、下敷き、筆記具
  防寒用具(夕方はとても冷え込みます)
- 現場にはトイレがありませんので、観察舎で済ませてください。

調査の手順と注意点

- 既にねぐらに居るカワウを数える。
- 受け持ち区域を確認する

調査場所の土手からの眺め

カワウの帰還　1

カワウの帰還　2

やや遠目から数える。

ある程度の
塊を意識して数える。

カワウの帰還　3

大規模ねぐら調査の注意点

- 「群れの受け渡し」は、きちんと確認しあう。
- 数百以上の群れになることがわかっている場合は、
  「10」羽で、「1」カウントを押すなどの工夫をする。
  （「だるまさんがころんだ」作戦）
  場合によっては、「100」羽で「1」カウントもあり。
- 焦らない
- 諦めない
- 臨機応変

※　事故の無いように注意してください。